

は
が

今ではめずらしい稲かけでの天日干し。
今年は「農林22号」を作付けられたそうです

神戸市から波賀町小野の圃場に片道100キロ、2時間かけて通い、農作業にとりくまれる人たちがいます。藁苅倶楽部の皆さんです。

きっかけは、兵庫県農業ボランティアの募集で、小野ふれあい農園のボランティアとして活動されたことでした。地元の方から「いつも手伝いばかりやで、田んぼ貸したげるで百姓してみちゃんいか」と声をかけられました。

会員10人で平均年齢70歳以上。「最初は遠いかった道のりが今では

都会から 農作業に通う

わらづとくらぶ
藁苅倶楽部



自然を大切にスローライフをめざして

楽しみにかわり、短く感じるようになった。田畑を荒れさせないで作っていくことが大切なこと」と代表の高月宮子さん。

地元役員の北川誠郎さんも「農家も高齢化が進み放棄田になるのをくい止めたい。倶楽部の人たちの活気が自治会にも伝わってきて元気をもらっている」と話されました。

両者の思いが通じ合って地域が活性化しているようです。

(波賀支部 上田めぐみ)

ち
くさ

みんなで点字を学ぶ

オープンスクールで
小学校が連携



10月18日(月)、オープンスクールにあわせて、千種の小学生が全員、千種南小学校に集まり、学年ごとに授業を受けました。

小中の連携が始まって5年、今年度は小学校間の交流を目的に合同授業が行われました。

子さん(千種町)から点字の打ち方を教えてもらいました。

打った点字を読んでもらった児童は「点字を打つのはむずかしいけど、ちゃんと読んでもらえた」、「盲導犬は目の見えない人を助けてい

国語の授業で点字について学習をした4年生28名は、目が不自由な大島千明さん(波賀町)と高岸美鈴さん(千種町)から暮らしの実体験を聞くことができました。

そして市内のボランティアグループ(点訳サークルあい)や金本法



「(北小、東小、南小)いっしょに点字ができてうれしい」



ちゃんと読んでもらえるかな

るのです」と点字学習を通じて、視覚障がい者とのコミュニケーションの二つの方法を学ぶことができました。

(千種支部 小原志のぶ)